

備蓄米入札 21 万トンを全量埋まる
需給引き締め効果は限定的

令和 8 年産備蓄米の第 4 回買入札（事前契約）が 9 日に行われ、翌日 落札結果が発表された。一般枠（産地指定なし）で提示された 3332 トンに対して 1 万 8648 トン（競争率 5.6 倍）が申し込まれ、枠の全量の売り渡しが落札された。

今回の入札では、売渡資格を持つ 159 業者のうち 34 業者が札入れし、6 業者だけが落札した。これにより、8 年産で予定されていた買入総枠 20 万 7521 トンがすべて埋まった。

第 1 回入札からの累計で落札数量の多い順に、①福島 3 万 1606 トン②新潟 2 万 5932 トン③青森 2 万 5233 トン④山形 2 万 0429 トン⑤秋田 1 万 5589 トン——と主に東北勢が上位を占有。以下、⑥宮城 1 万 1972 トン⑦北海道 1 万 0001 トン⑧富山 8567 トン⑨石川 7841 トン⑩栃木 5879 トン——などと続いた。

8 年産備蓄米の買入札は、初回には農協系統の様子見により落札数量が 1 万トン台と伸びなかったが、入札後に 2 万 0500 円程度の落札事例が伝わると、第 2 回からこれをやや下回る札入れが農協系統から旺盛になった。この結果、4 回までの入札で総枠全量が埋まる流れとなった。

ただし、放出備蓄米の影響で供給過剰感が極めて強い中、21 万トン程度の買入数量は、「4 月末の作付意向調査で生産見込数量から上ブレが予想される 22 万トン分」、あるいは「SBS 輸入米と民間輸入米を合わせた 20 万トン」に相当する規模にとどまる。緩和し切った需給を引き締める効果はほとんどないに等しいため、注意が必要だ。